
持続可能な原材料調達と 消費者への安全な食材の提供

イオン株式会社

-
1. 当社の中期経営計画とアジア・シフト
 2. 持続可能な原材料調達と消費者への安全な食材の提供の取組み
 - ① GFSIとグローバル・マーケット・プログラム
 - ② 当社のPB調査の考え方
 - ③ 「持続可能なサプライヤー発展プログラム」
SSDP (Sustainable Supplier Development Program)
 - ④ GFSI日本ローカル・ワーキング・グループ
 - ⑤ GFSIとFCP
 3. 政府への期待
-

中期経営計画(2014~2016年度)

(1) 4つのシフトの加速

「アジア」、「都市」、「シニア」、「デジタル」

(2) 商品本位の改革

(3) 2016年度 連結数値目標

営業収益	8兆円以上
営業利益	2,800億円以上
ROIC	6%以上
DEレシオ	1倍程度

2016年に向け、海外でのSC出店が加速
新規出店面積では海外が国内を上回る

	2010年度	2013年度	2016年度 (計画)
営業利益 海外構成比	10%	10%	15%
海外SC 店舗数	28 店舗	36 店舗	70 店舗以上
SC面積 海外構成比	25%	27%	40%

25

Copyright 2014 AEON CO., LTD. All Rights Reserved.

出所:2014年2月期 連結決算説明会資料(2014年4月10日)

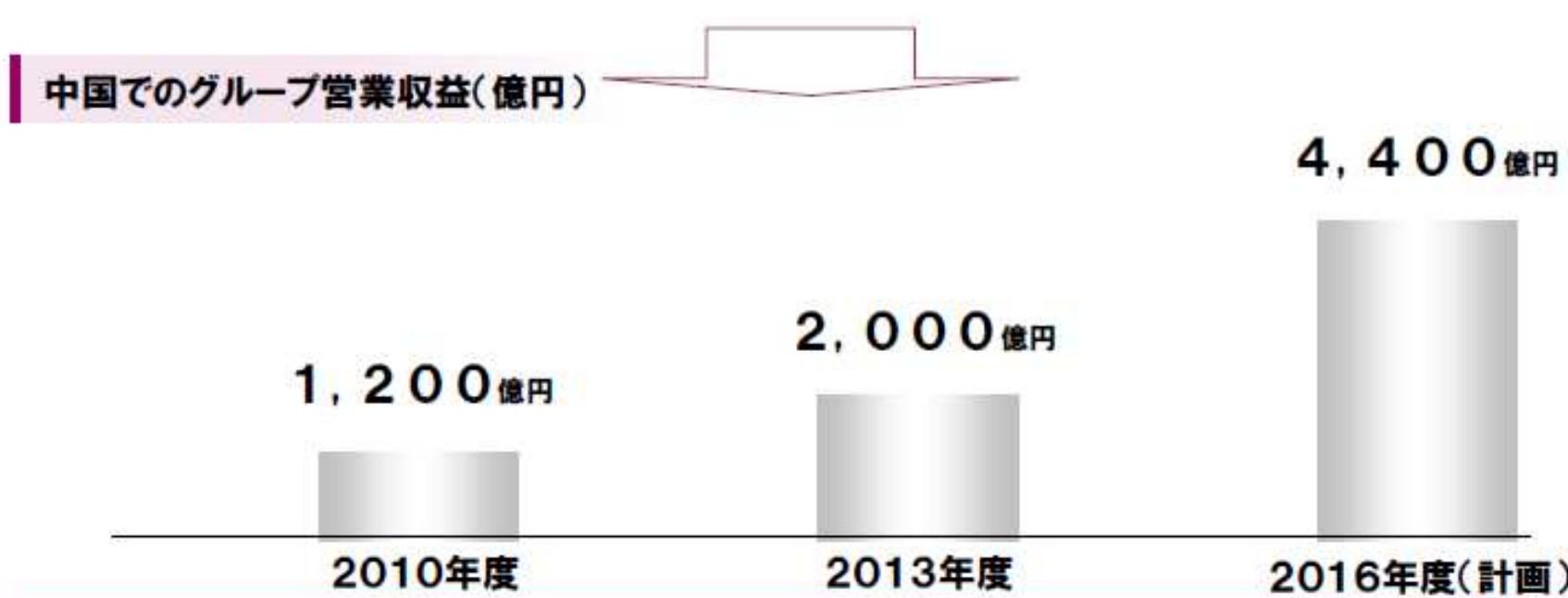
4

2016年度 中国地域でのグループ営業収益 4,400億円
<2010年度対比 約4倍>

中国
経済環境

2013年度

GDP成長率 7.7% < 小売成長率 13.1%



23

Copyright 2014 AEON CO., LTD. All Rights Reserved.

出所: 2014年2月期 連結決算説明会資料(2014年4月10日)

5

2016年度 アセアン地域でのグループ営業収益 5,300億円
<2010年度対比 約4倍>

過去3カ年
の成長

- ・マレーシアでNO.2の営業収益
- ・125店舗体制を構築（GMS、SM、DS）

次期3カ年の
主要施策

- ・ベトナム、カンボジア、インドネシアなどアセアン全域で出店を加速
- ・グローバルMDにより、日本の商品等の展開により差別化を推進

アセアンでのグループ営業収益(億円)

5,300 億円

1,250 億円

2,700 億円

2010年度

2013年度

2016年度(計画)

24

2. ①GFSIとグローバル・マーケット・プログラム



GFSIとは？

What is GFSI?

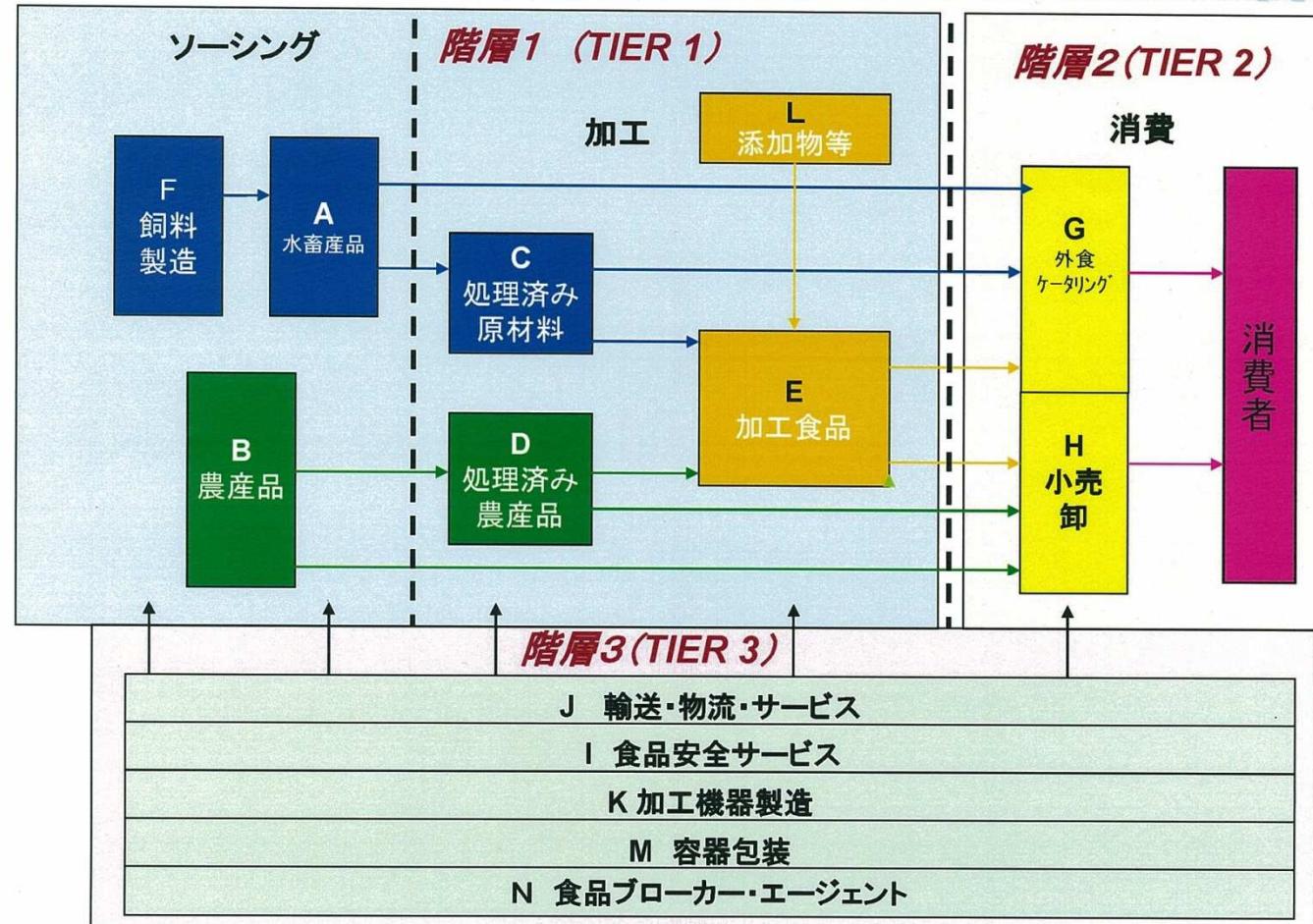
Global Food Safety Initiative



Shared responsibility through Collaboration

食品安全という共同責務、協働により成し遂げられること

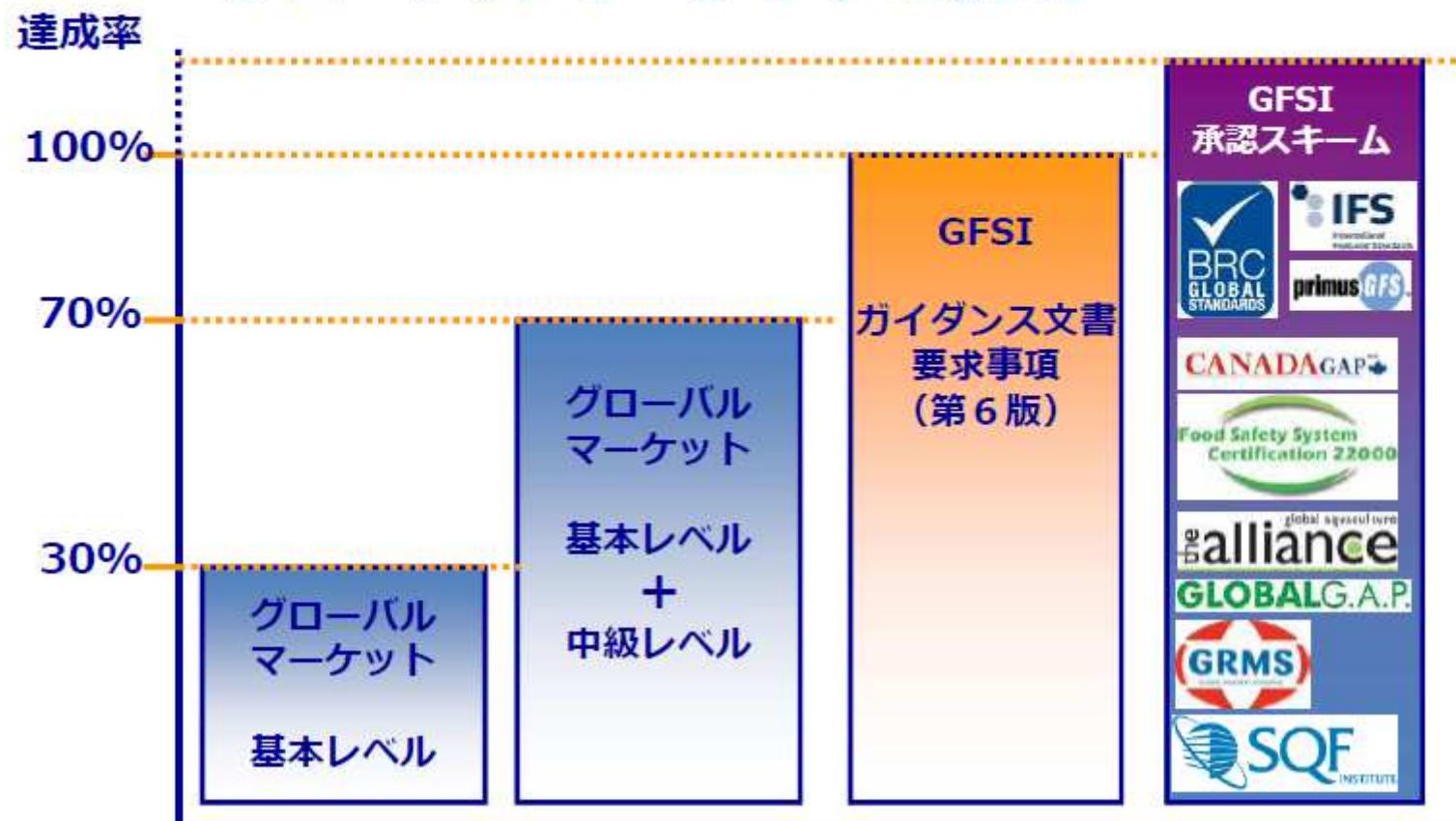
GFSI サプライチェーンモデル



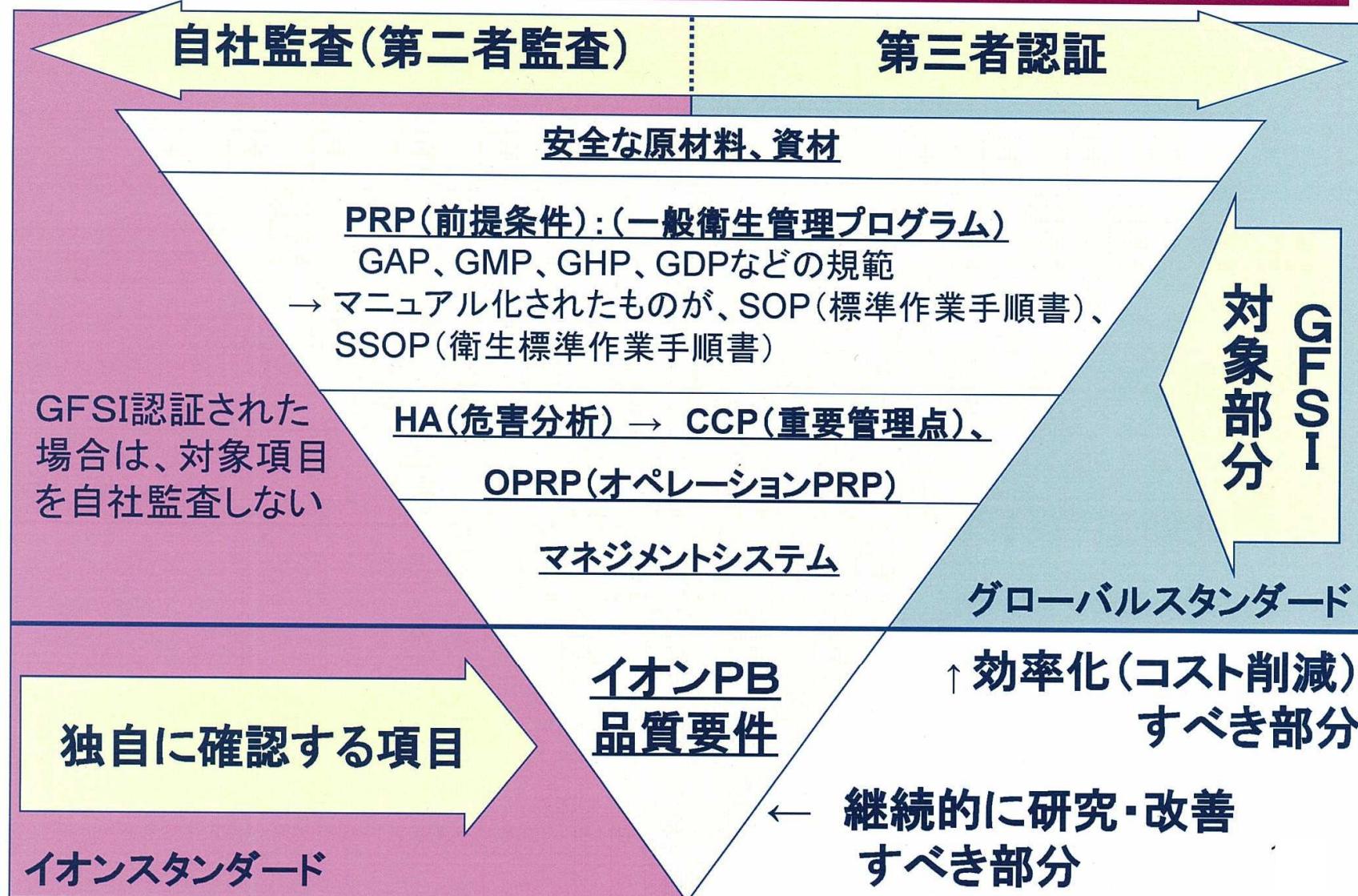
GFSIとは？

What is GFSI?

グローバルマーケットの説明



2. ② イオンのPB調査の考え方について



- 「持続可能なサプライヤー発展プログラム」
Sustainable Supplier Development Program
 - 2013年6月研修スタート
 - マレーシア政府、UNIDOと当社による共同プロジェクト
 - 東南アジアにおける、小規模サプライヤーの食品安全・品質管理の能力向上を目指す
 - GFSI(Global Food Safety Initiative)が開発した小規模サプライヤー向け食品安全プログラムの導入を目指す

背景

Background



国内産業育成、サプライチェーンの拡充、
雇用機会の創出

持続可能な産業基盤構築、貿易能力向上、
官民連携

アジアシフト、GFSIのアジアでのリード役、
お客様への安全な食材提供

市場参入機会の拡大、他国への輸出機会拡大

持続可能な原材料調達 + 消費者へ安全な食材の提供

プロジェクト概要

SSDP: Overview

Public-Private-Partnership (官民連携)



- ✓ 中小規模サプライヤー支援
- ✓ 学術機関との連携

- ✓ 安全・安心な食材の提供
- ✓ 品質管理の指導およびトレーナー育成

- ✓ 専門知識の提供、能力向上プログラム提供
- ✓ 外部機関・専門家との連携

– 2012年1月発足

– 活動内容

- (1) 食品安全に関する要件等のGFSIへの提言とアジアを中心とした活動への寄与
- (2) 日本の食品安全に関する意見交換及び公開
- (3) 食品安全に関する活動に取組む国内外の関連機関(行政機関・学術機関等)との交流・連携
- (4) 日本の食品安全に関する社会教育の推進
- (5) 食品安全に関する広報活動及び国際協力

– コアチーム・メンバー企業(17社)

リーダー：イオン サブリーダー：花王、キリン、コカ・コーラ

メンバー(五十音順) 味の素、伊藤園、カゴメ、サントリー、西友、
ダノンジャパン、日清食品、ニチレイフーズ、日本水産、日本生活協同組合、
日本ハム、ネスレ日本、ハウス食品

2. ⑤GFSIとFCP(フード・コミュニケーション・プロジェクト)



- 国内中小食品事業者の食品安全国際規格対応のためのタスクフォース(2013年8月)
 - GFSIのグローバル・マーケット・プログラムと農林水産省主催FCP(フード・コミュニケーション・プロジェクト) 共通工場監査項目の整合性を検討
- 中間報告(2014年1月)
 - FCP共通工場監査項目は、グローバル・マーケット・プログラムの初級・中級レベルが含まれる
 - 数項目を追加することで整合性が高まることが確認される

3. 政府への期待



- 発展途上国や中進国における食品安全の技術の普及
 - 専門家の育成機関への拠出(例:ODAの活用)
 - 外国政府の人材育成機関への専門家の派遣
- 食品安全規制の国内と海外におけるシームレス化
- 国際規格への取組み強化
 - Codexへの更なる貢献
- 国内での食品安全の強化
 - FCP普及への取組みの強化